

研究種目：基盤研究 (B)
研究期間：2007 ~ 2010
課題番号：19320061
研究課題名 (和文) 「隣語大方」の新研究—早稲田大学服部文庫所蔵「朝鮮語訳」に着目して—
研究課題名 (英文) A new study of Ringotaihou, comparing with Tyoosengoyaku stored in the Hattori Collection, Waseda University Library
研究代表者
岸田 文隆 (KISHIDA FUMITAKA)
大阪大学・大学院言語文化研究科・教授
研究者番号：30251870

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：隣語大方、朝鮮語訳、かな書き朝鮮語、全一道人、対馬宗家文書、分類紀事大綱、倭館館守日記

1. 研究計画の概要

江戸時代から明治の初年にかけて、対馬および薩摩苗代川の地において朝鮮語が学習され、幾多の朝鮮語学書が編纂されたことは、ひろく知られた事実であるが、これに関連した資料の一部が今に伝わる。それら資料の多くは、1960年代に京都大学国文研究室より影印刊行され、朝鮮語および日本語の研究に裨益するところ大なるものがあつた。ところで、10年ほど前から、日本の国内・外において、従来知られていなかった新資料が陸續と発見され、この分野の研究は、新たな局面にさしかかってきている。ことに、それら新発見の資料の中には、それぞれの資料の成立の経緯を考えるうえで重要な情報を提供するものがあり、各資料の成立論を再検討する必要が生じている。本研究は、このような観点から、当時最も広く用いられていた語学書のひとつである「隣語大方」をとりあげ、この度新たに発見された写本「朝鮮語訳」に着目しつつ、その成立について検討・考察を加えるものである。「朝鮮語訳」は「隣語大方」の所拠資料と判断されるが、その文献学的・言語学的検討をおこない、解題・本文の翻字・索引を作成する。最終年度においては、この資料の解題・本文翻字・索引付き影印本の刊行をおこなう計画である。

2. 研究の進捗状況

本研究においては、「隣語大方」の所拠資料である早稲田大学服部文庫所蔵の「朝鮮語訳」全3巻の解読と文献学的検討（他の関連諸資料との照合）および言語学的検討を実施

し、また、「朝鮮語訳」のデータベースを作成する計画であるが、過去3年間において、以下の研究・作業を実施した。

まず、解読については、「朝鮮語訳」全3巻中第1巻および第2巻に当る対話篇全文のかな書き朝鮮語部分・ハングル表記朝鮮語部分・くずし字表記日本語部分について、検討を加えた。第3巻の小説篇については、現在その半分程度の作業を終えている。

つぎに、文献学的検討については、「朝鮮語訳」の成立にかかわる諸資料との照合作業の一環として、対馬宗家文書の「分類紀事大綱」および「倭館館守日記」との照合作業を実施した。その結果、「朝鮮語訳」対話篇巻2の文例のほとんどが、享保19年(1734)から元文2年(1737)の史実・歴史記録に対応するものであることが判明し、本書巻2の成立年がそれ以降であることが明らかとなった。

言語学的検討については、本書の朝鮮語かな表記についての検討をおこなった。その結果、本書の朝鮮語かな表記が同時代の対馬資料である「全一道人」(1729)のかな表記と酷似していること、本書のかな表記が少なからずその当時の朝鮮語および日本語の現実発音を反映したもので、(転字ではなく)転写的性格が強いことが明らかとなった。特に、朝鮮語の語頭複子音の「ㄷ(b)-」、「ㄴ(s)-」に対し小書きのかな「フ#」、「ス#」を当てた例については、その分布が音声的な環境にしたがっていることから、実際の発音をあらわしたものと見られるので、語頭複子音の「ㄴ(s)-」を濃音のダイアクリティックマークと見る通説をくつがえす重要な根拠となるもので

ある。
データベースの作成については、解説のすんだ「朝鮮語訳」対話篇全文を入力し、デジタルデータを作成した。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。
(理由)

「朝鮮語訳」全3巻のうち、最も難解な巻1および巻2の解説が終わり、また、残りの巻3についても半分程度の作業を終え、質量ともに本研究の全作業の4分の3以上を完了しているため。また、前述のとおり、本研究を開始する前には予想していなかった重要な事実が、文献学的検討および言語学的検討を通じて、新たに発見されたため。

4. 今後の研究の推進方策

当初の計画通り、残りの作業を実施する。
「朝鮮語訳」巻3の後半部分の解説とデータベースの作成をおこなうとともに、文献学的・言語学的検討を継続する。また、来年度中には、この資料の解題・本文翻字・索引付き影印本の刊行のための版下原稿を作成する計画である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4件)

①鄭丞惠、「『隣語大方』朝鮮刊本の成立과 撰者に 대하여 -韋章閣 韓國本 書目『西庫書目』에 據하여-」 『국어사연구』9, pp.239-268. 서울: 國語史學會、2009年、査読有

②鄭丞惠、「와세다대학 핫토리문고 소장 『조선어역』에 대하여」 『二重言語學』40, pp. 153-183. 서울: 二重言語學會、2009年、査読有

③岸田文隆、「資料翻字 早稲田大学服部文庫所蔵「朝鮮語訳」対話篇」 『朝鮮語史研究』, pp.161-199. 東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2009年、査読無

④岸田文隆、「早稲田大学服部文庫所蔵『朝鮮語訳』の朝鮮語かな表記について (その1: 子音について)」、*Dynamics in Eurasian Languages*, pp.71-102. 神戸: 神戸市看護大学人文科学領域、2008年、査読有

[学会発表] (計 11件)

①岸田文隆、「쓰시마(対馬) 및 사쓰마(薩摩)의 한국어학서 -신자료의 발견과

연구-」, 국어학회 창립 50주년 기념학술대회, 2009年12月18日、韓国西江大学校

②岸田文隆、「『全一道人』および「朝鮮語訳」の朝鮮語かな表記についての一考察 -語頭複子音について」、第224回朝鮮語研究会、2009年10月24日、大阪大学待兼山会館

③岸田文隆、「『隣語大方』の淵源: 「朝鮮語訳」と『韓牘集要』」、訳学書学会創立大会、2009年9月12日、韓国又石大学校

④岸田文隆、「어학서와 역사기록 -와세다(早稲田)대학 핫토리(服部)문고 소장 「조선어역(朝鮮語訳)」과 대마도종가문서(対馬島宗家文書)와의 대조-」、第3回韓国言語・文学・文化国際學術大会、2009年2月12日、韓国延世大学

⑤鄭丞惠、「早稲田大学服部文庫 소장 『朝鮮語訳』에 대하여 -『인어대방』성립론의 재고(再考)」, 國語史学会冬期研究会、2009年1月30日、韓国梨花女子大学人文館111号

⑥岸田文隆、「語学書と歴史記録 -早稲田大学服部文庫所蔵「朝鮮語訳」と対馬宗家文書との照合一」、朝鮮語史研究会、2008年12月6日、東京外国語大学A A研302号室

⑦岸田文隆、「早稲田大学服部文庫所蔵「朝鮮語訳」の資料的価値について」、東ユーラシア言語研究会第13回例会(司訳院四学の総合的研究に関する会合)、2008年6月28日、青山学院大学総研ビル3階第11会議室

⑧岸田文隆、「『朝鮮語訳』の朝鮮語かな表記について(その1: 子音について)」、第221回朝鮮語研究会、2008年1月12日、大阪大学待兼山会館

[図書] (計 1件)

①岸田文隆、「語学書と歴史記録 -早稲田大学服部文庫所蔵「朝鮮語訳」と対馬宗家文書との照合一」 『朝鮮半島のことばと社会 -油谷幸利先生還暦記念論文集』, pp.236-268. 東京: 明石書店、2009年